

バークレイズ・ピーエルシー

グループ・ストラテジー・アップデート

「選ばれる銀行 ('Go-To' bank) 」になるために

2014年5月8日

バークレイズの事業の再編と簡素化に取り組む

インベストメント・バンクの規模の適正化と事業の絞り込み

ノン・コア事業を一元的に管理するノン・コア部門、および
パーソナル・アンド・コーポレート・バンキング部門の新設

成長ビジネスへの資本配分

コストベースの構造的な引き下げ

より高水準かつ持続可能なリターンの創出

リターンの改善に向けてグループのリバランスを進める

規制環境の大幅な変化

- 資本要件の引き上げ
- レバレッジ規制の実施の前倒し
- 英国銀行税の大幅な引き上げ

経済環境の停滞

- 量的緩和と低金利
- マクロ商品への過度の依存

インベストメント・バンク (IB) – 債券・為替およびコモディティ(FICC)の 比重が過大

2013年度 ¹	IB合計に占める FICC ² の比率 (%)
リスク調整後資産	71
収益	54

グループ – IBの比重が過大

2013年度 ²	グループに占める IBの比率(%)
リスク調整後資産	51
税引前利益 ³	44
平均配分株主資本	57
レバレッジ・ エクスポージャー	62
IBの平均株主資本 利益率 (RoE) ³	5.8

「選ばれる銀行(‘Go-To’ bank)」になるというグループの目標は変更せず、
それを達成する方法を見直し

¹ CRD IV ベース | ² 撤退対象事業を含む | ³ Transform達成費用を除く |

事業を絞り込んだ国際的な金融機関となることで、より高く持続可能なリターンと成長を実現

既存の強みを生かす

- 大規模かつ成功を収めているリテールおよびコーポレート・バンキングのフランチャイズをさらに拡大
- 2つの自国市場(米国と英国)での強みを活用
- 株式、バンキング、クレジットおよび規制に影響されにくく、スケールメリットが効果的な特定のマクロ商品の事業展開を強化

高成長ビジネスに的を絞る

- 伝統的な銀行業務および成長ビジネスに資本を再配分
- 英国以外の地域、特に米国(カード、投資銀行業務)とアフリカ全域で、平均を上回る成長を達成

重要性が低い、または縮小傾向のビジネスから撤退

- 特定の資産と事業を撤退または圧縮に向けて再編
- 新規制に影響される一部のFICC事業を閉鎖
- 資本をの保全を図りつつ、ノン・コアポートフォリオを圧縮

コストの徹底的な見直し

- 景気循環を通して12%超のリターンを実現できるよう、グループに占めるIBの規模を適正化
- 英国やその他の主要市場で経済回復に備えた事業体制を維持
- グループ全体で大規模かつ構造的なコスト削減を完遂

根拠となるこれまでの実績

- 英国クレジット・カード債権残高で1位¹
- 英国モーゲージで高水準のリターンを創出しつつ、過去最高の10%のシェアを達成
- 英国新規株式公開(IPO)で1位²

- 米国でのカード債権残高は2004年以降10倍超に拡大
- 資産および利益でアフリカ最大級の銀行
- 2013年の世界M&A(発表・完了)でトップ5に²

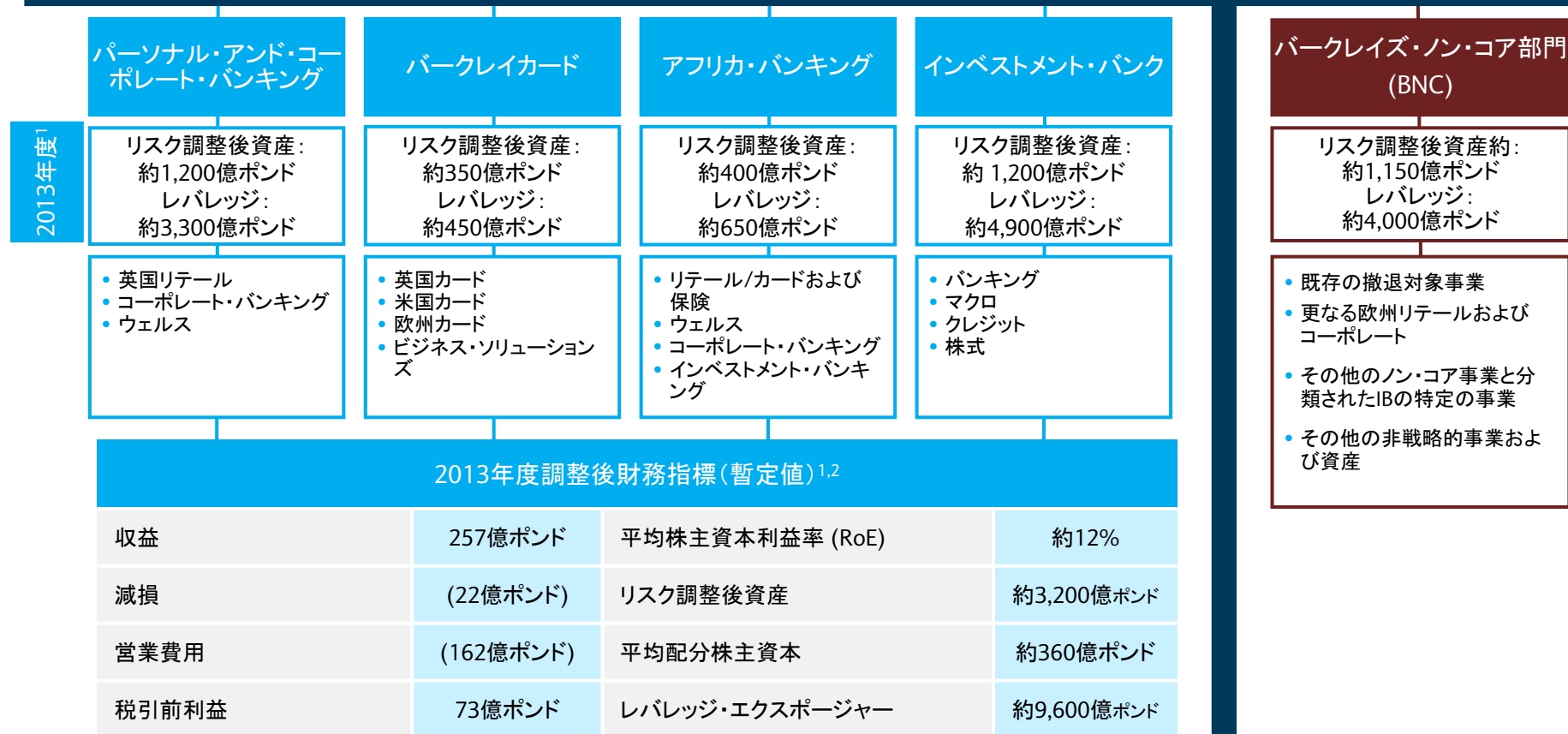
- 撤退対象事業のリスク調整後資産を2013年に37%削減
- 環境の変化に対応し、コモディティ事業を改革

- 2014年度1-3月期の営業費用(Transform達成費用を除く)は四半期としては2009年以来の低水準
- 新たな低コストの販路として、モバイル・バンキングを幅広く導入

¹ 出所: Nilson | ² 出所: Dealogic |

事業を絞り込み、より簡素でバランスの取れた構造を実現するための再編を実施

バークレイズ・グループ



¹ Transform達成費用および調整項目を除く。CRD IVベース | ²「コア」はリスク調整後資産約50億ポンド、レバレッジ・エクスポージャー約300億ポンドに相当する本社を含む |

パーソナル・アンド・コーポレート・バンキング： 英国を基盤として確立された大規模なフランチャイズ

	2013年度暫定値 ¹ (億ポンド)
収益	88
減損	(6)
営業費用	(55)
税引前利益	27
財務パフォーマンス指標²	
RoE	11-12%
レバレッジ・エクスポージャー	約3,300億ポンド
リスク調整後資産	約1,200億ポンド
平均配分株主資本	約170億ポンド

ハイライト

- 英国市場で築いた強固な地位と世界の有力顧客をカバーする国際的なコーポレートおよびウェルス・フランチャイズを統合：
 - リテール事業顧客 1,500万
 - 中小事業者顧客 800,000社
 - 企業顧客 35,000社
 - ウェルス事業顧客資産 2,000億ポンド
- 適切なリスク管理と経済の回復を生かせる事業体制を英国および関連海外市場で確立
- 高い業務処理能力を持つ共通の商品プラットフォームを支えられたデジタル・イノベーションを通じてカスタマー・エクスペリエンスの差別化およびコストの削減
- 個人や事業者のニーズに応えるために必要なサービスを切れ目なく提供

¹ Transform達成費用約4億ポンドと調整項目を除く | ² CRD IVベース |

バークレイカード: リターンが高く、成長余地の大きいビジネス

	2013年度暫定値 ¹ (億ポンド)
収益	41
減損	(11)
営業費用	(18)
税引前利益	12
財務パフォーマンス指標²	
RoE	16-17%
レバレッジ・エクスポージャー	約450億ポンド
リスク調整後資産	約350億ポンド
平均配分株主資本	約50億ポンド

ハイライト

- アブサ・カードをアフリカ・バンキングに移管し、5つの市場で展開する消費者向け決済事業で高リターンを創出し、着実に成長
- 業界有数のフランチャイズを誇り、全ての市場および事業で3年連続でシェアを拡大
- 最近の成長の原動力:
 - 3年間で770万に増加した顧客
 - 3年間で41%増加した債権残高
 - 厳選した事業の取得
 - 銀行、提携、直販を組み合わせた販路の活用
- 確立された高い競争力で、競争優位性を維持
 - 業界の先端を行くコスト構造
 - 関連性のある新商品イノベーションに取り組む能力
 - 世界レベルの分析力
 - 欧州、米国の両地域でスケールメリットを確立
 - 消費者へのカード発行と利用事業者の獲得の両方でスケールメリットを確立

¹ Transform達成費用および調整項目を除く | ² CRD IVベース |

アフリカ・バンキング: 多くの国で競争優位を確立、中長期的な成長を期待

	2013年度暫定値 ¹ (億ポンド)
収益	40
減損	(5)
営業費用	(25)
税引前利益	10
財務パフォーマンス指標²	
RoE	8-9%
レバレッジ・エクスポージャー	約650億ポンド
リスク調整後資産	約400億ポンド
平均配分株主資本	約40億ポンド

ハイライト

- 12カ国で事業展開、1,400以上の支店と1万900台以上のATMからなる営業網
- 4万5,000人以上の従業員数、1,200万以上の顧客
- 約360億ポンドの顧客資産
- 以下2点が相まって生み出す競争上の強み:
 - グローバルなグループの一角
 - 現地市場において確立されたプレゼンス
- 南アフリカ、ケニヤ、ガーナ、ボツワナ、ザンビアにおいて、今後3年以内に収入トップ3にランクインするという意欲的な目標を設定
- 以下3点に特に注力:
 - アフリカ全体のリテール・フランチャイズの立て直し
 - 大陸全域でコーポレート・バンキング業務に投資
 - 富裕層向けビジネス、資産運用、保険で成長機会を捕捉

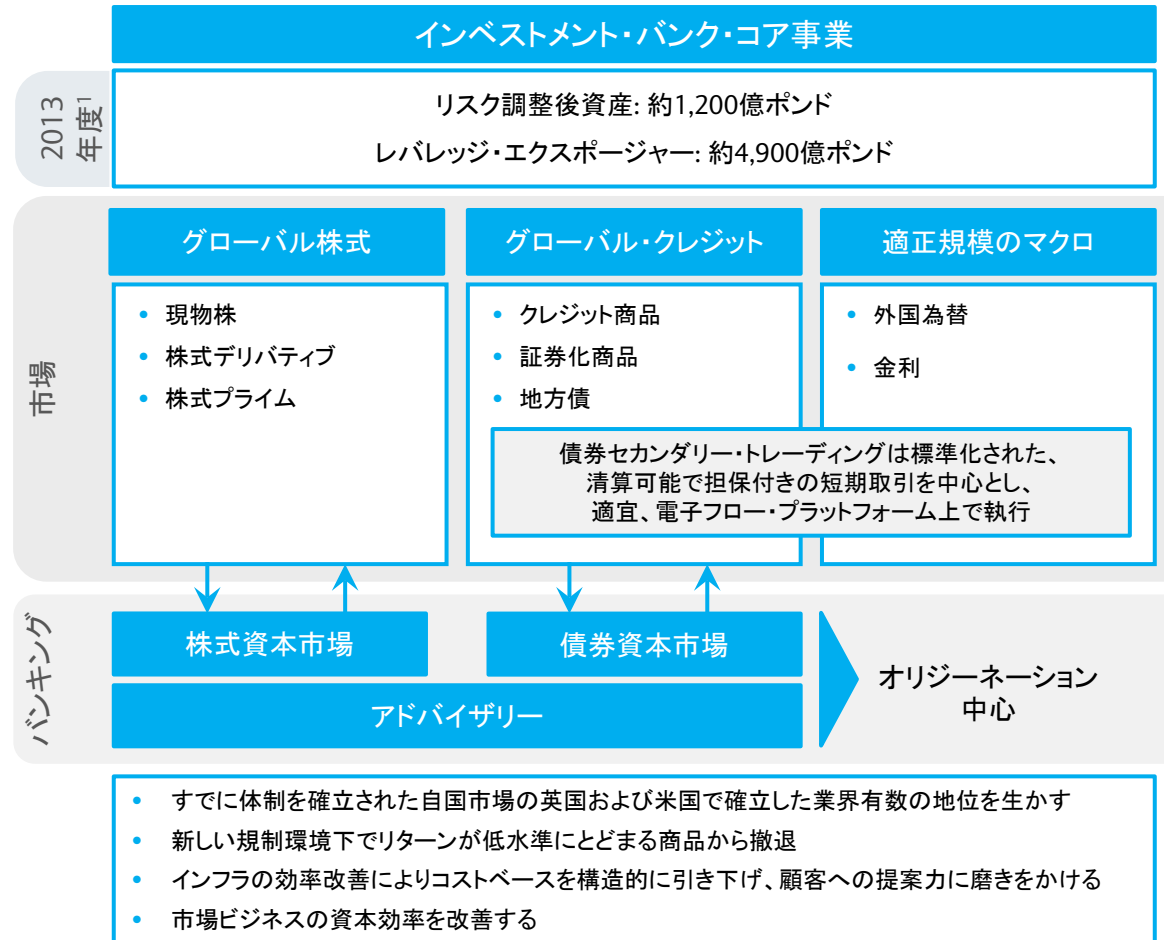
¹ Transform達成費用および調整項目を除く | ² CRD IVベース |

インベストメント・バンク・コア事業



¹ Transform達成費用および調整項目を除く。CRD IVベース | ²「コア」はリスク調整後資産約50億ポンド、レバレッジ・エクスポージャー約300億ポンドに相当する本社を含む |

インベストメント・バンク・コア: 競争上の優位性を生かす



インベストメント・バンク・ノンコア部門

リスク調整後資産: 約900億ポンド
レバレッジ・エクスポージャー:
約3,400億ポンド

市場部門

- 撤退対象資産
- 大半の現物コモディティ
- 特定の新興市場商品
- 多額の資本を必要とするマクロ取引

自己勘定ビジネス

- 投資
- クレジット

バンキング

- フロントからバックオフィスまで効率化を図ることで人員を削減

¹ CRD IV ベース |

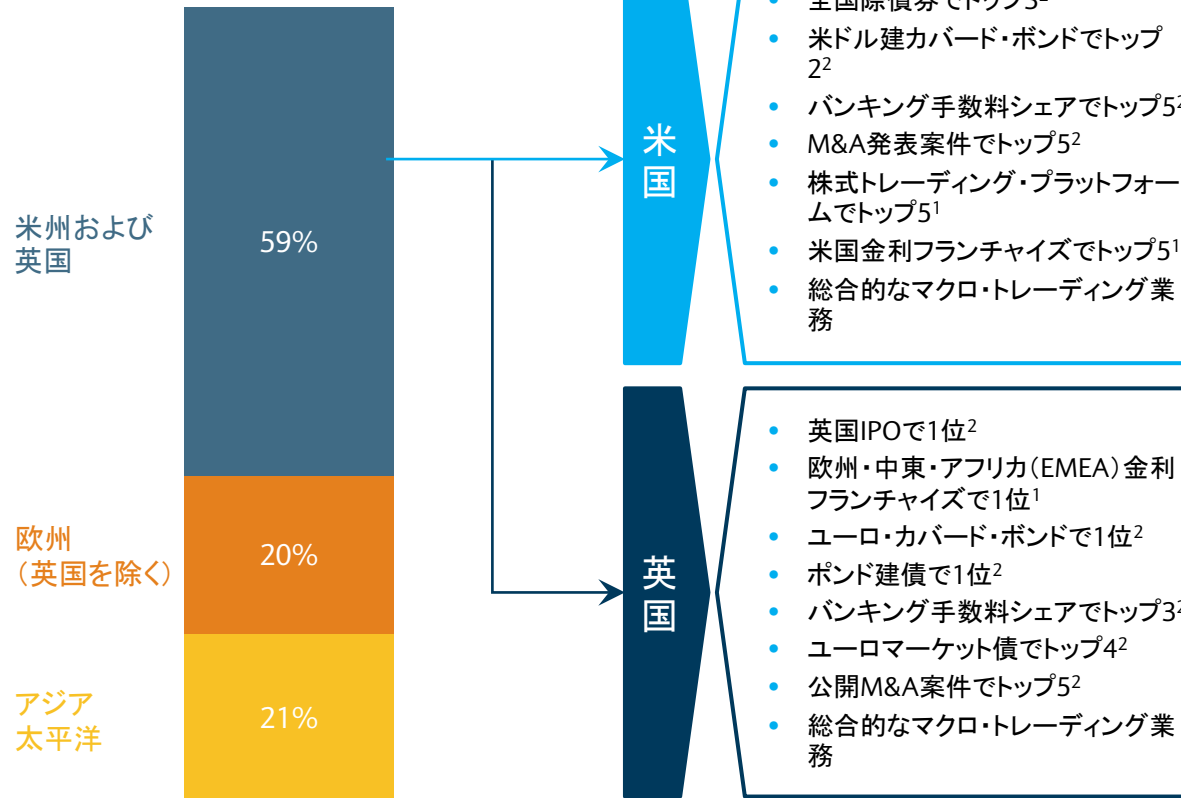
既存の顧客フランチャイズの強さを最大限に活用

インベストメント・バンキング収入プールは2つの自国市場が最大

当グループが市場で強固な地位を確立している自国市場

重要な顧客を絞り込む

地域別のグローバル収入プール¹
(2013年度上半期)

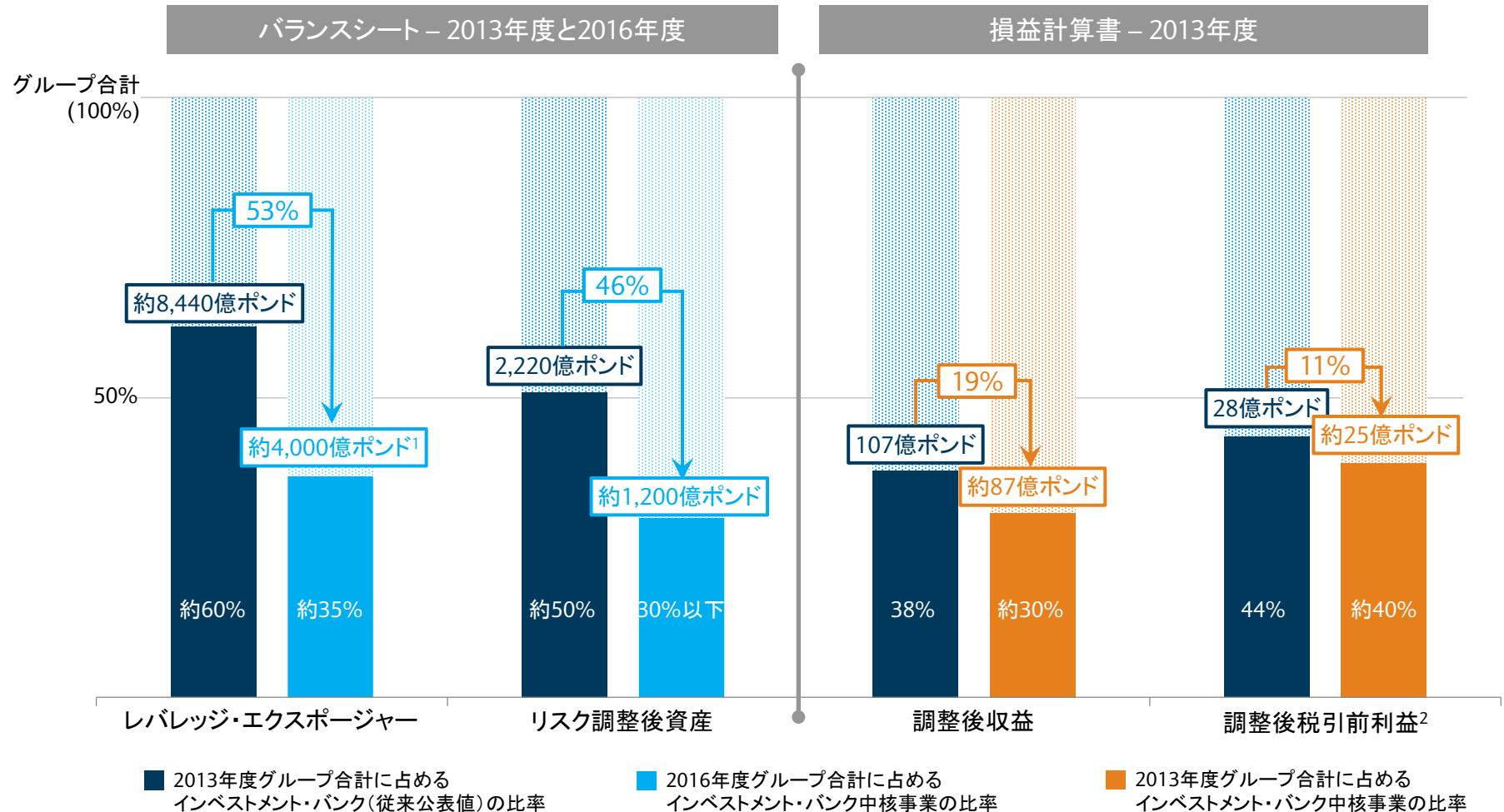


- 中核的な顧客の手数料シェアでトップ3入りを目指す
 - 2013年度のインベストメント・バンク収入の75%超は約1,000の顧客から獲得
- ノン・コア的なグローバル、コーポレート、金融機関顧客の数を大幅に減らし、経営資源を有力顧客に集中させる
- 顧客がもたらす収益性に応じた階層的なサービス・モデル
- 既存の強固な顧客フランチャイズの活用をさらに広げる
 - 英国と米国の2地域からなる自国市場
 - 他の全ての地域で関連性のある効率的な事業基盤を維持
- 中核的な顧客の取引を支援するためにバランスシートを従来以上に選択的に活用

¹ 市場におけるポジションは2013年のデータに基づく。| ¹ 算出方法: 収入プールは2013年度上半期決算を基に「フランチャイズ」別に算出。市場でのポジションはCoalitionIndex構成銀行を対象に2013年度決算を基に「商品」別に算出|

² Dealogic |

インベストメント・バンクの規模適正化により バランスの適正化を図る



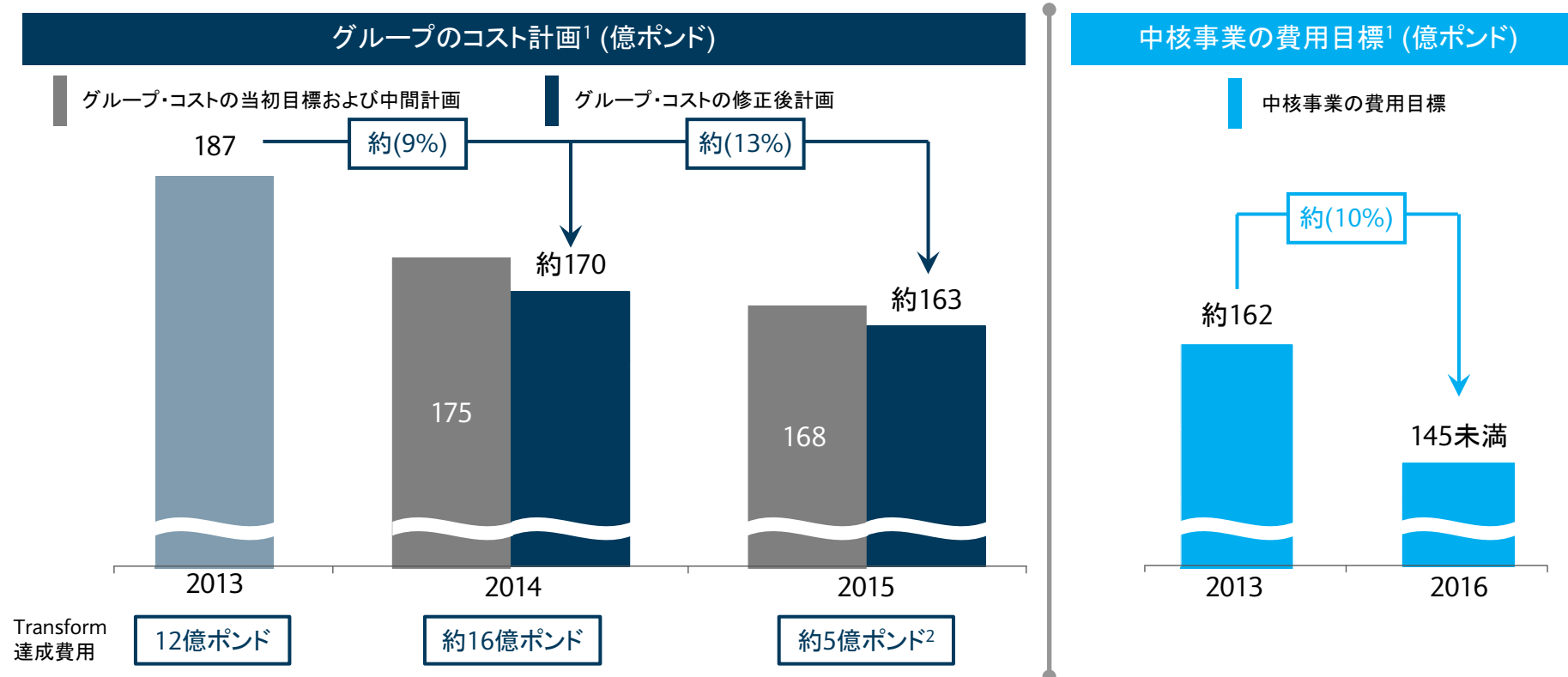
¹2016年度のレバレッジ・エクスポージャーは2014年1月のバーゼル銀行監督委員会の提案による算出方法を基に推定。他の全ての規制関連指標はCRD IVベースで算出 ² Transform達成費用を除く

バークレイズ・ノン・コア部門を集中的に管理



¹ Transform達成費用および調整項目を除く、CRD IVベース | ²「コア」はリスク調整後資産約50億ポンド、レバレッジ・エクスポージャー約300億ポンドに相当する本社を含む |

構造的なコスト削減が進展

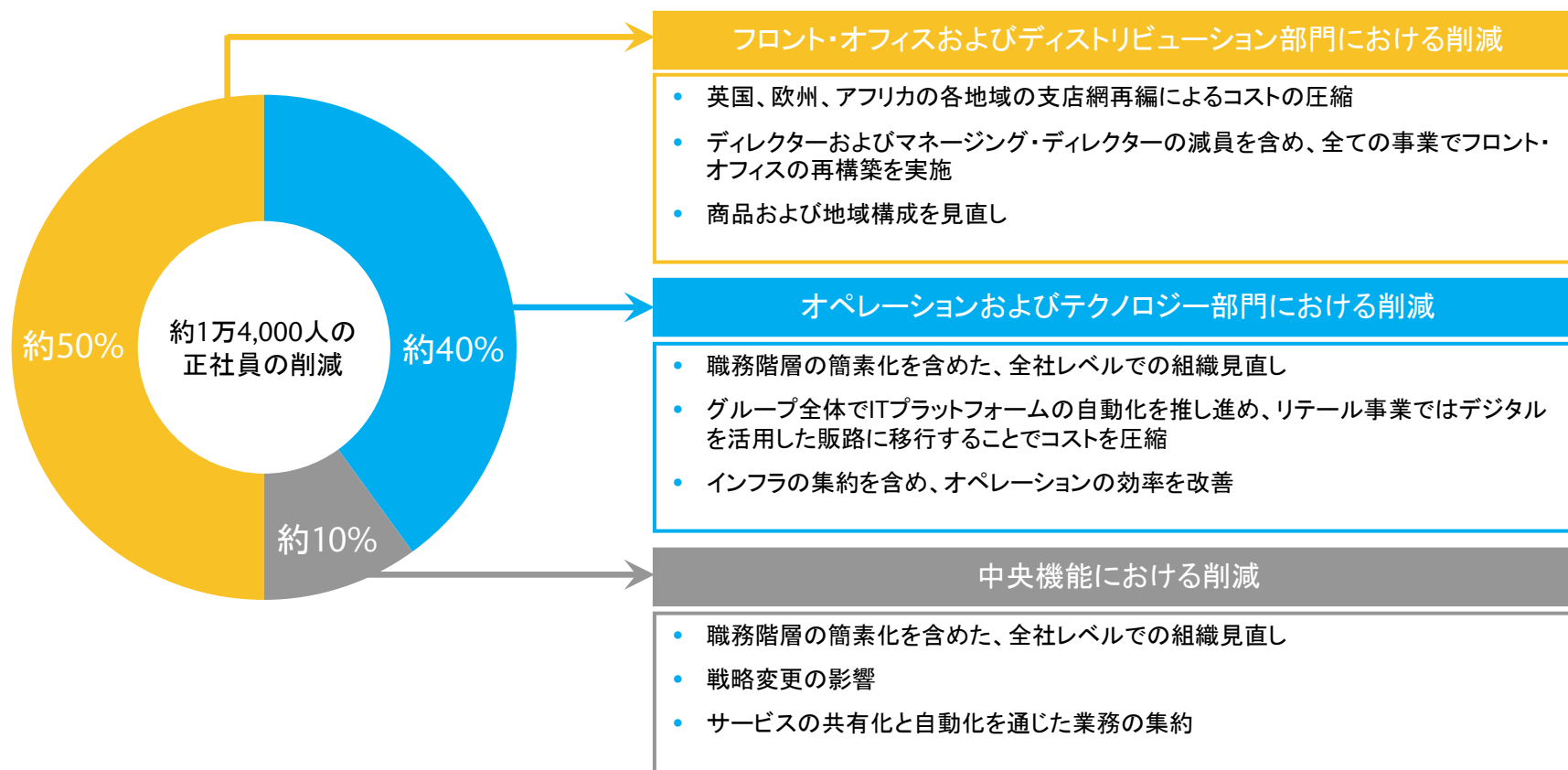


- 当初計画のTransform達成費用27億ポンドのうち、これまで約14.5億ポンドを消化。2016年度までに中核、ノン・コア事業両方で総数で7,000人の人員削減の実施を含め、主にインベストメント・バンクの業務見直しを受けてさらに8億ポンドが必要に
- 2016年度の中核事業費用目標145億ポンド未満は、為替レートは一定との前提に基づき、行為に係る費用など、多額の特別項目は除いた値
- 今後のコスト削減は主に人員削減と全事業を対象とするシステム化の推進により達成する見込み

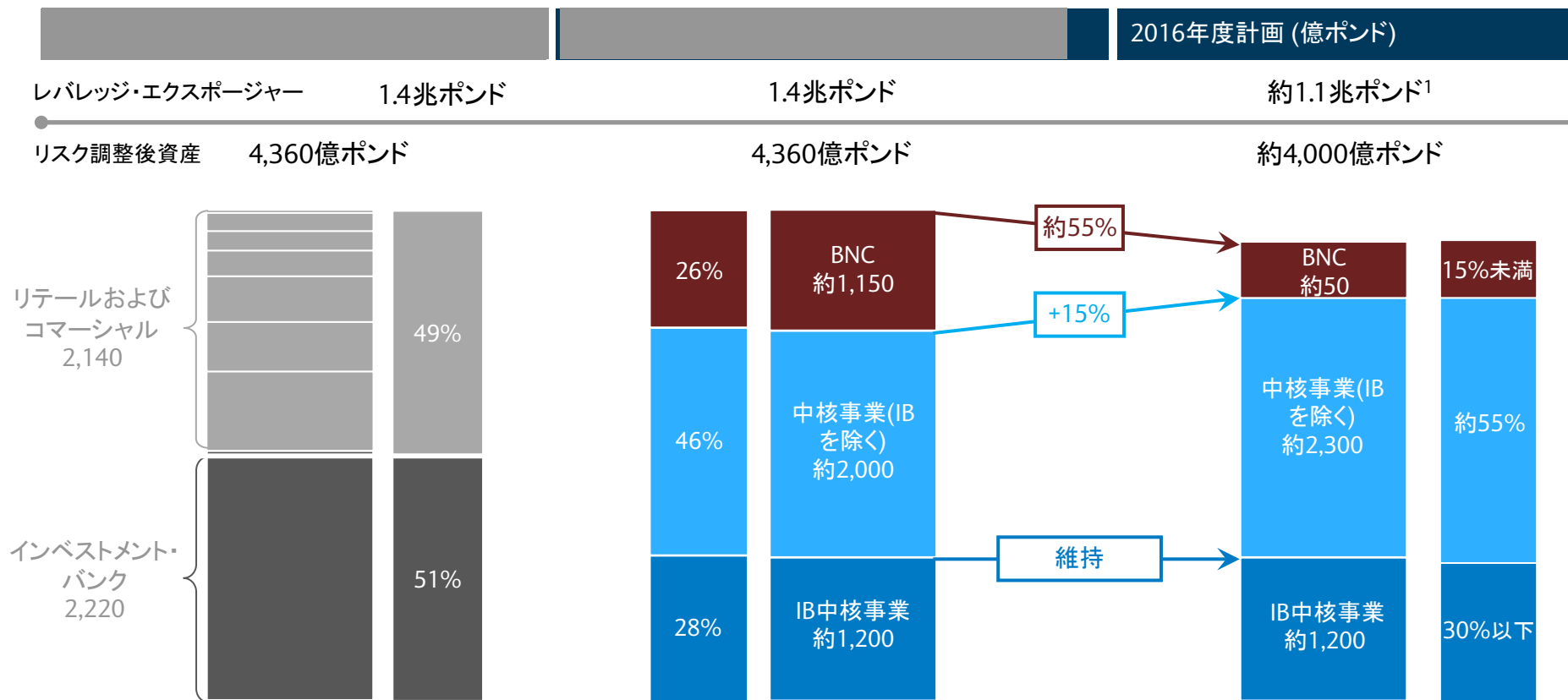
¹ 支払保障保険 (PPI) および金利ヘッジ商品に係る補償引当金、のれんの減損、Transform達成費用を除く | ² 2016年度に中核、ノン・コア事業の両方を含め、さらに2億ポンドのTransform達成費用が発生する見通し |

2014年度の人員削減総数を増加、 Transform達成費用を上乗せ

2014年度の人員削減総数は約1万4,000人に増え、Transform達成費用は約16億ポンドに



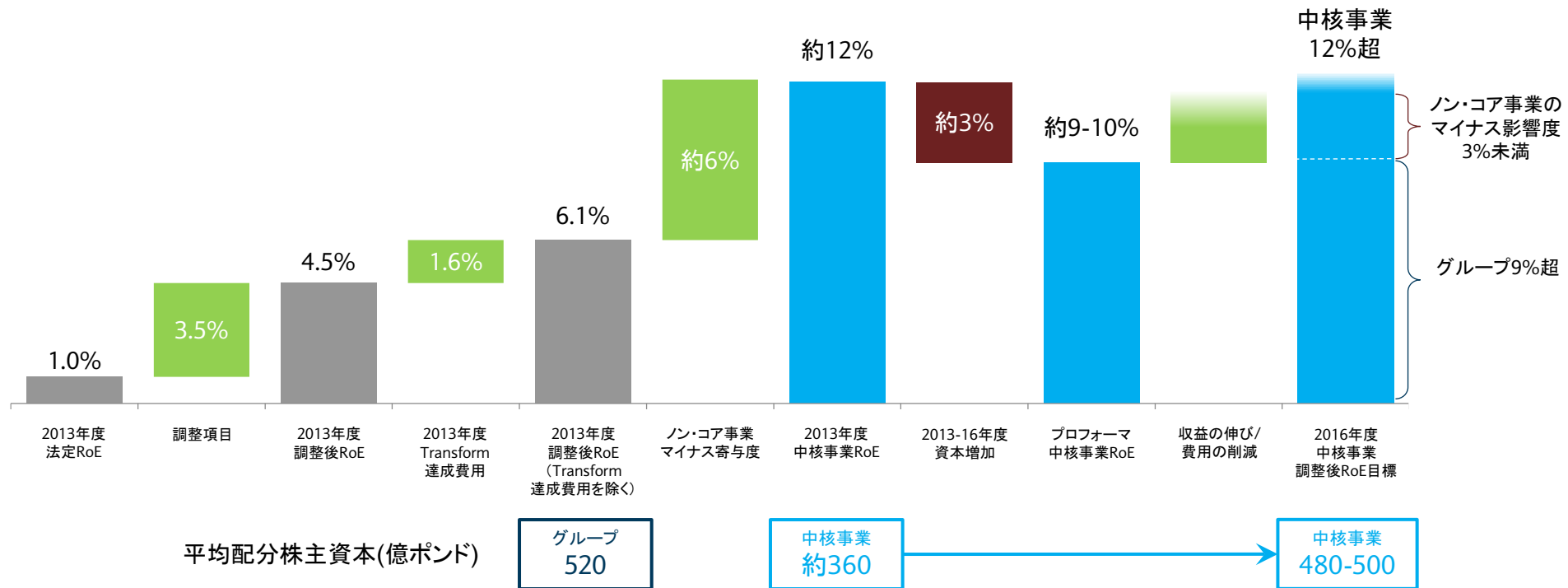
よりバランスのとれたグループの資本配分



インベストメント・バンク中核事業がグループのリスク調整後資産に占める割合を30%以下に

¹ 2016年度のレバレッジ・エクスポージャーは2014年1月のバーゼル銀行監督委員会の提案による算出方法を基に推定。他の全ての規制関連指標はCRD IVベースで算出

中核事業は株主資本基盤の大幅増強を前提に、 12%超の平均調整後RoEを維持する計画



■ 以下の効果により、中核事業の調整後RoE(Transform達成費用を除く)を2016年度までに12%超に引き上げる見込み:

- 実質17億ポンド超の中核事業費用削減
- リテールおよびコーポレート・フランチャイズと厳選したIB事業の拡大
- インベストメント・バンク中核事業リスク調整後資産の持続的な最適化

■ リターン目標は普通株式等Tier1(CET1)およびレバレッジ比率目標達成に向けた株主資本基盤全体の増強を勧奨したもの

■ これらの計画によりパークレイズ・ノン・コア部門のグループRoEに対するマイナス影響は約6%から2016年度に3%未満(うち、約50ベースポイントは欧州リテール)に低下する見込み

リバランス後のバークレイズ – 2013年度の概要(暫定)

バークレイズ・グループ 2013年度暫定値 ¹ (億ポンド)	
収益	282
減損	(31)
営業費用	(187)
税引前利益	64
RoE/ (ノン・コア事業のRoEへのマイナスの影響)	6.1%
レバレッジ・エクスポージャー (ポンド)	1.4兆
リスク調整後資産	4,360
平均配分株主資本	520

中核事業	BNC
257	25
(22)	(9)
(162)	(25)
73	(10)
約12%	約(6%)
約9,600	約4,000
約3,200	約1,150
約360	約160

ハイライト: 中核事業

- 収益の90%以上を生み出し、改善された税引前利益
- 2013年度の調整後RoE¹は約12%に達するなど、既に高リターンを実現
- コスト効率是一段と改善する見込み
- ノン・コア事業のRoEに対するマイナスの影響度はグループRoEと中核事業RoEの差

¹ Transform達成費用および調整項目を除く。財務指標はCRD IVベースで表示 |

2016年度のTransform財務目標

グループ	①	資本	CRD IV完全施行ベースのCET1比率: 11.0%超
	②	レバレッジ	レバレッジ比率:4.0%超
	③	配当	配当性向:40-50%
中核事業	④	リターン	調整後RoE:12%超
	⑤	コスト	調整後営業費用:145億ポンド未満
バークレイズ・ ノン・コア部門	⑥	リターン	調整後RoEに対するマイナス影響度: 3%未満

インベストメント・バンク・コア事業と
バークレイズ・ノン・コア部門

インベストメント・バンク: 2013年度インベストメント・バンク・コア事業財務指標(暫定値)

	2013年度暫定値 ¹ (億ポンド)
バンキング部門収益	21
市場部門収益	66
マクロ	24
クレジット	19
株式	23
収益	87
減損	0
営業費用	(62)
税引前利益	25
財務パフォーマンス指標²	
RoE	9-10%
レバレッジ・エクスポージャー	約4,900億ポンド
リスク調整後資産	約1,200億ポンド
平均配分株主資本	約170億ポンド

ハイライト

- インベストメント・バンクのコア事業ではリターンを重視:
 - 米国と英国の2つの自国市場を持つことによる優位性を生かす
 - 当グループが規模と高リターンを確立している商品に集中する
 - クレジットと債券資本市場業務、株式と株式資本市場業務の連携を高めるために事業を再編
 - マクロ・トレーディングはより単純で担保付の短期商品を中心に手掛け、電子プラットフォームによる執行を増やす
- 資源と営業費用の圧縮を継続:
 - 市場部門で提供する商品を整理し簡素化
 - オペレーションとテクノロジー部門を再構築
 - インフラを合理化
- 2016年度にインベストメント・バンク中核事業のレバレッジ・エクスポージャーは約4,000億ポンド、リスク調整後資産は約1,200億ポンドに

景気サイクルを通して12%超の平均株主資本利益率を維持する計画

¹ Transform達成費用約2億ポンドおよび調整項目を除く² CRD IVベース

バークレイズ・ノン・コア部門: 資産圧縮がTransformにおける極めて重要な要素に

	2013年度暫定値 ¹ (億ポンド)
収益	25
減損	(9)
営業費用	(25)
税引前利益(損失)	(10)
財務パフォーマンス指標 ²	
レバレッジ・エクスポージャー	約4,000億ポンド
リスク調整後資産	約1,150億ポンド
平均配分株主資本	約160億ポンド

- 主な収益源はインベストメント・バンクの市場部門業務、および欧州モーゲージの純利息収入
- 減損は主に欧州リテールおよびコーポレート・エクスポージャーに関連
- 営業費用は主にノン・コア部門におけるインベストメント・バンク事業のコスト・ベースと欧州リテールに関連
- レバレッジ・エクスポージャーの大半はCRD IV導入前の金利ポートフォリオとバークレイズ・ノン・コア部門のトレーディング勘定に関連

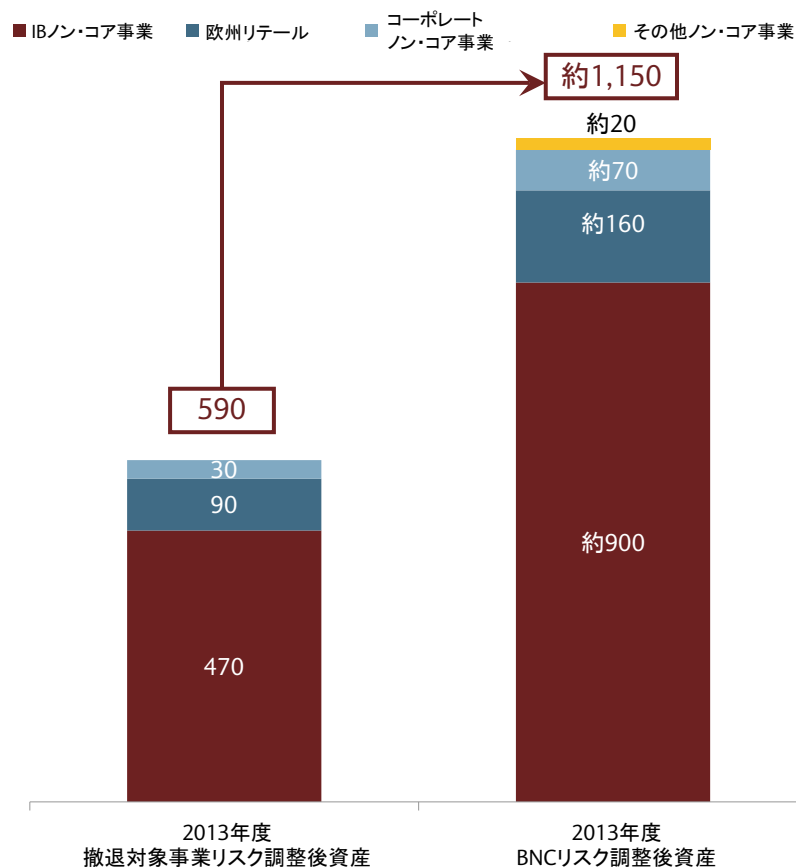
ノン・コア部門の2013年度調整後株主資本利益率¹に対するマイナス影響度は約6%

¹ Transform達成費用約5億ポンドおよび調整項目を除く² CRD IVベース

ノン・コア事業には厳格な規律を適用

バークレイズ・ノン・コア部門の構成

2013年度リスク調整後資産の大きさの構成(億ポンド)



ノン・コア部門への選別基準と具体的な理由

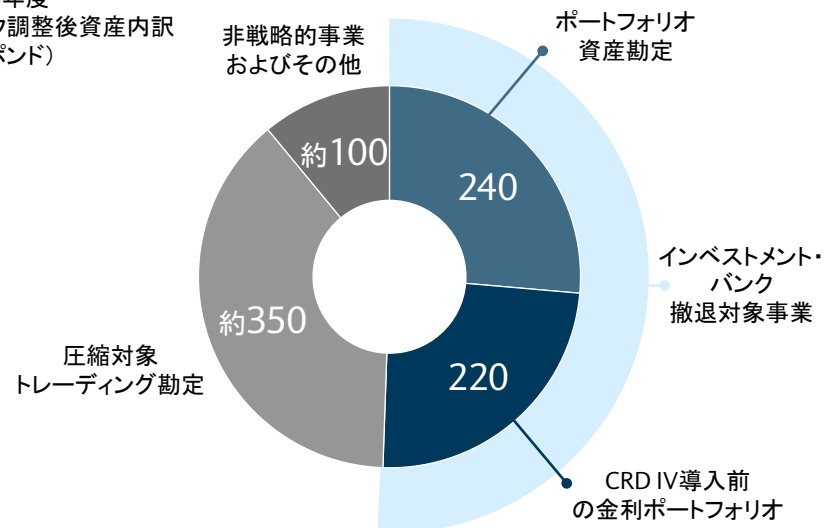
- 戦略的魅力度合
 - バークレイズにとって成長機会は限定的
 - 戦略に適合しない事業
- リターン
 - レバレッジやリスク調整後資産リターンの基準達成は困難と予想される事業
- 新たにノン・コア事業に含める資産:
 - 従来のインベストメント・バンク撤退対象事業に加え、厳しい状況にある一部のFICC事業と自己勘定投資
 - 欧州リテール事業の全て
 - 特定のコーポレート資産とその他の小規模のウェルスおよびバークレイカードのポートフォリオ

経営とガバナンス

- 専任チームが経営にあたり、独自のガバナンスを行う
 - グループ経営委員会から権限を委任され、CEO直属とする
- ノン・コア事業のトレーディング資産は専任トレーダーが管理。必要に応じて中核事業とノウハウを共有
- 経営は商業ベースで行われ、正味有形資産価値および資本の保全を優先する
- 旧来の不採算資産の圧縮での優れた実績-2013年度に撤退対象事業資産を37%削減

ノン・コア事業の大半はインベストメント・バンク資産

2013年度
リスク調整後資産内訳
(億ポンド)

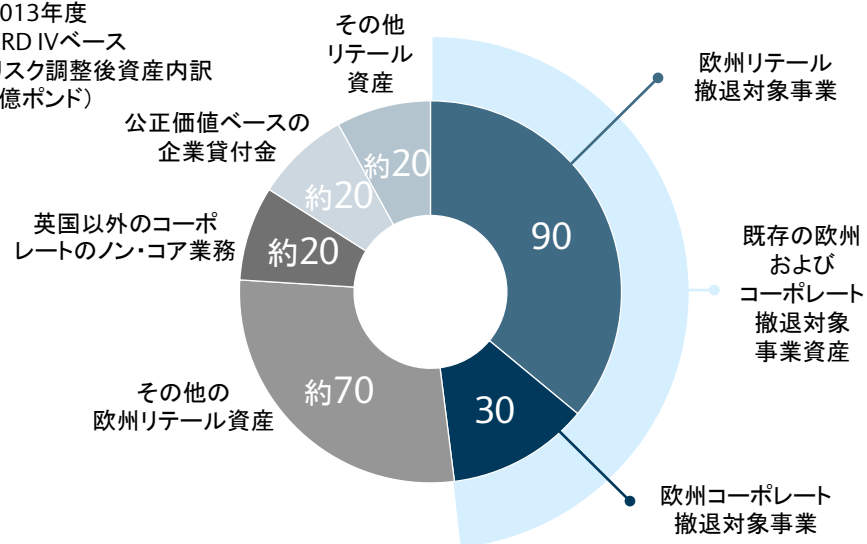


- 「圧縮対象トレーディング勘定」はノン・コア事業に分類されたコモディティ、新興市場、債券ファイナンス、証券化商品で構成
- カウンターパーティー・クレジット・リスクはCRD IV導入前金利ポートフォリオ、ポートフォリオ資産勘定、圧縮対象トレーディング勘定に含まれる
- インベストメント・バンクノン・コア事業関連のレバレッジ・エクスポージャーは推定で約3,400億ポンド

2013年度暫定値	収益 (100万ポンド)	リスク調整後資産 (億ポンド)
ポートフォリオ資産勘定	142	240
CRD IV導入前の金利ポートフォリオ	(140)	220
インベストメント・バンク撤退対象事業	2	470
圧縮対象トレーディング勘定	約710	約350
非戦略的事业およびその他	約785	約100
その他のノン・コア事業資産	約1,495	約450
インベストメント・バンクノン・コア事業	約1,500	約900

残りのノン・コア事業は一部のコーポレート、リテール、その他資産で構成される

2013年度
CRD IVベース
リスク調整後資産内訳
(億ポンド)

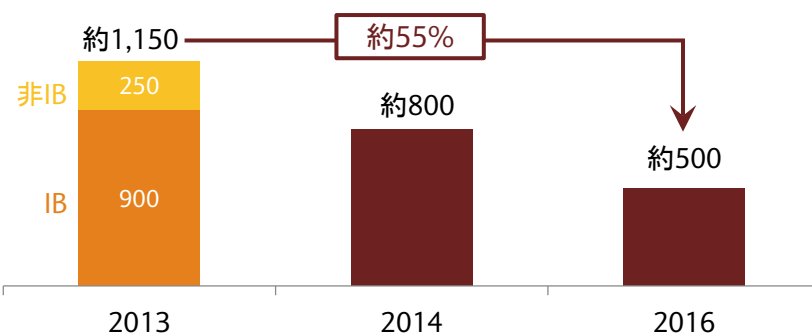


- 欧州リテールは継続企業(ゴーイング・コンサーン)として運営しつつ、選択肢の評価を実施
- 欧州リテールは主にスペインとイタリアの優良モーゲージ・ポートフォリオに関連。これらポートフォリオは内部で年間約9%のペースで圧縮が進み、90日超延滞率は80ベースポイントで安定推移
- その他のノン・コア事業資産は公正価値ベースの長期企業貸付金157億ポンドを含む
- これらノン・コア事業資産関連のレバレッジ・エクスポージャーは推定で約600億ポンド

2013年度暫定値	収益 (100万ポンド)	リスク調整後資産 (億ポンド)
欧州リテール撤退対象事業	118	90
コーポレート欧州撤退対象事業	80	30
欧州およびコーポレート撤退対象事業資産	198	120
その他の欧州リテール資産	約530	約70
非英国コーポレートのノン・コア業務	約80	約20
公正価値ベースの長期企業貸付金	約(100)	約20
その他リテール資産	約290	約20
その他のノン・コア事業資産	約800	約150
インベストメント・バンク以外のノン・コア事業資産合計	約1,000	約250

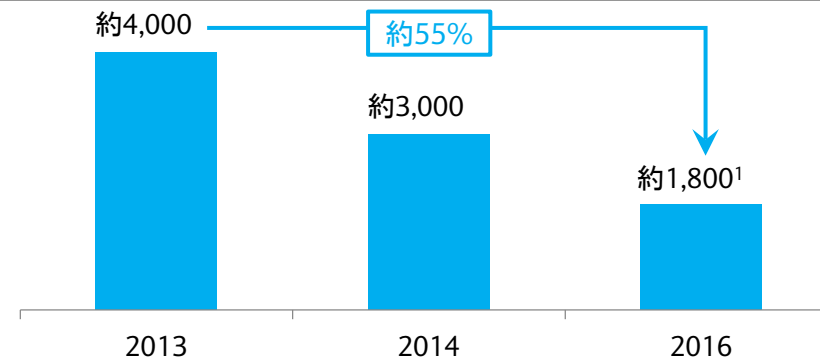
ノン・コア事業はリスク調整後資産とレバレッジ削減のため、厳格に管理

リスク調整後資産は2016年度までに約55%削減する見込み
(億ポンド)



- 売却と圧縮を通じてリスク調整後資産を減少
- 2016年度末時点で残っているリスク調整後資産は欧州モーゲージとCRD IV導入前の金利ポートフォリオに起因する長期カウンターパーティー・クレジット・リスクが中心となる見込み
- 削減は直線的に進展するとは限らず、市場環境に左右される可能性もあり

レバレッジ・エクスポージャーは2016年度までに約55%削減する見込み
(億ポンド)



- 大幅なレバレッジの規制上のアドオンにつながる資産からの撤退および/またはより効率的なネットティングにより、レバレッジ・エクスポージャーは55%減少する見込み
- ノン・コア事業資産の減少は計画期間中の撤退の規模を示す
- 2014年度に大幅な削減、2015-16年度には更に大規模な削減を計画

グループの正味有形資産価値の保全を優先し、株主資本利益率へのマイナス影響度を2013年度の約6%から2016年度に3%未満に引き下げることを目指す

¹ 2016年度のレバレッジ・エクスポージャーは2014年1月のバーゼル銀行監督委員会の提案による算出方法を基に推定。他の全ての規制関連指標はCRD IVベースで算出

2013年度の調整後財務指標(暫定値)

2013年度暫定値 (億ポンド) ¹	パーソナル・ アンド・ コーポレート・ バンキング	バークレイ カード	アフリカ・ バンキング	インベストメン ト・バンク 中核事業	バークレイズ・ コア ³	バークレイズ・ ノン・コア	グループ合計
収益	88	41	40	87	257	25	282
減損	(6)	(11)	(5)	0	(22)	(9)	(31)
営業費用	(55)	(18)	(25)	(62)	(162)	(25)	(187)
調整後税引前利益	27	12	10	25	73	(10)	64
調整後財務パフォーマンス指標 ²							
RoE	11-12%	16-17%	8-9%	9-10%	約12%	約(6%)	6.1%
レバレッジ・ エクスポージャー	約3,300億 ポンド	約450億 ポンド	約650億 ポンド	約4,900億 ポンド	約9,600億 ポンド	約4,000億 ポンド	1.4兆ポンド
リスク調整後資産	約1,200億 ポンド	約350億 ポンド	約400億 ポンド	約1,200 億ポンド	約3,200億 ポンド	約1,150億 ポンド	4,360億ポンド
平均配分株主資本	約170億 ポンド	約50億ポンド	約40億ポンド	約170億 ポンド	約360億 ポンド	約160億 ポンド	520億ポンド

¹ Transform達成費用約12億ポンドおよび調整項目を除く | ² CRD IV ベース | ³ コア合計は本社を含む



結論

2016年度のTransform財務目標

グループ	①	資本	CRD IV完全施行ベースのCET1比率: 11.0%超
	②	レバレッジ	レバレッジ比率:4.0%超
	③	配当	配当性向:40-50%
コア	④	リターン	調整後RoE:12%超
	⑤	コスト	調整後営業費用:145億ポンド未満
バークレイズ・ ノン・コア	⑥	リターン	調整後RoEへのマイナス影響度: 3%未満



Q&A

Forward-looking statements

This document contains certain forward-looking statements within the meaning of Section 21E of the US Securities Exchange Act of 1934, as amended, and Section 27A of the US Securities Act of 1933, as amended, with respect to certain of the Barclays PLC's and its subsidiaries' (the Group) plans and its current goals and expectations relating to its future financial condition and performance. Barclays cautions readers that no forward-looking statement is a guarantee of future performance and that actual results could differ materially from those contained in the forward-looking statements. These forward-looking statements can be identified by the fact that they do not relate only to historical or current facts. Forward-looking statements sometimes use words such as 'may', 'will', 'seek', 'continue', 'aim', 'anticipate', 'target', 'projected', 'expect', 'estimate', 'intend', 'plan', 'goal', 'believe', 'achieve' or other words of similar meaning. Examples of forward-looking statements include, among others, statements regarding the Group's future financial position, income growth, assets, impairment charges and provisions, business strategy, capital, leverage and other regulatory ratios, payment of dividends (including dividend pay-out ratios), projected levels of growth in the banking and financial markets, projected costs or savings, original and revised commitments and targets in connection with the Transform Programme and Group Strategy Update, run-down of assets and businesses within Barclays Non-Core, estimates of capital expenditures and plans and objectives for future operations, projected employee numbers and other statements that are not historical fact. By their nature, forward-looking statements involve risk and uncertainty because they relate to future events and circumstances. These may be affected by changes in legislation, the development of standards and interpretations under International Financial Reporting Standards (IFRS), evolving practices with regard to the interpretation and application of accounting and regulatory standards, the outcome of current and future legal proceedings and regulatory investigations, future levels of conduct provisions, the policies and actions of governmental and regulatory authorities, geopolitical risks and the impact of competition. In addition, factors including (but not limited to) the following may have an effect: capital, leverage and other regulatory rules (including with regard to the future structure of the Group) applicable to past, current and future periods; UK, US, Africa Eurozone and global macroeconomic and business conditions; the effects of continued volatility in credit markets; market related risks such as changes in interest rates and foreign exchange rates; effects of changes in valuation of credit market exposures; changes in valuation of issued securities; volatility in capital markets; changes in credit ratings of the Group; the potential for one or more countries exiting the Eurozone; the implementation of the Transform Programme; and the success of future acquisitions, disposals and other strategic transactions. A number of these influences and factors are beyond the Group's control. As a result, the Group's actual future results, dividend payments, and capital and leverage ratios may differ materially from the plans, goals, and expectations set forth in the Group's forward-looking statements.

Any forward-looking statements made herein speak only as of the date they are made and it should not be assumed that they have been revised or updated in the light of new information or future events. Except as required by the Prudential Regulation Authority, the Financial Conduct Authority, the London Stock Exchange plc (the LSE) or applicable law, Barclays expressly disclaims any obligation or undertaking to release publicly any updates or revisions to any forward-looking statements contained herein to reflect any change in Barclays' expectations with regard thereto or any change in events, conditions or circumstances on which any such statement is based. The reader should, however, consult any additional disclosures that Barclays has made or may make in documents it has published or may publish via the Regulatory News Service of the LSE and/or has filed or may file with the US Securities and Exchange Commission.